



安心のネットワーク

NOSAI

もみ

籾の色を見て適期収穫に努めましょう

適期収穫時期判断のポイント

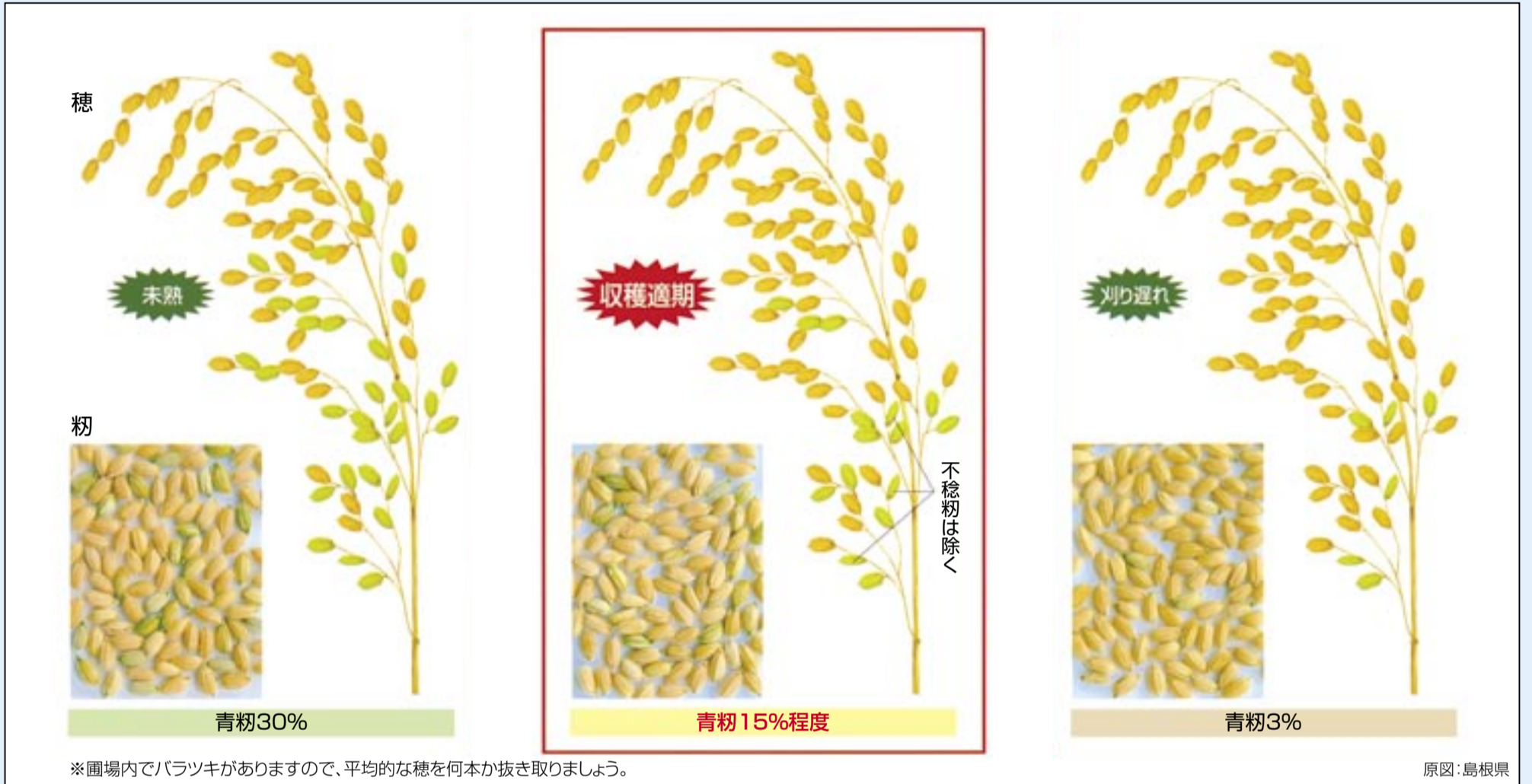
- ① 籾の黄化割合85%を目安とする。
- ② 出穂後、早生品種(キヌヒカリ)は39~44日、中生品種(関東209号・祭り晴)は42~48日を目安とする。
- ③ 気温が平年より高い年は収穫時期を早め、気温が低い年は収穫時期を遅らせる。

収穫適期の判断方法について

① 籾の黄化割合による判断方法 (1穂についている籾の色が黄色に変化した割合で収穫適期を判断する方法です。)

枝梗(籾が付いている枝)は、収穫期になっても黄化しにくくなっています。黄化した籾の割合がキヌヒカリでは85%程度(青い籾が15%残っている状態)、関東209号や祭り晴は、成熟期の気温が低くなるため90%程度が収穫適期になります。

図1: 1穂籾の黄化程度(割合)モデル図



② 出穂後日数による判断方法

(穂が出た日からの日数で収穫適期を判断する方法です。)

その年の気温により日数が違います。気温が平年に比べて高い年は日数が短くなり、気温が低い年は長くなります。

③ 出穂後の積算温度による判断方法

(出穂後の1日の平均気温を積算した温度で収穫適期を判断する方法です。)

気温の変化にはあまり影響を受けませんが、平均気温を調べて、計算する必要があります。

品種別・作期別収穫時期等平年値

品 種	作 期	出 穂 期	成 熟 期	登 熟 日 数	積 算 温 度
キヌヒカリ (早 生)	5月下旬植	8月 6日	9月14日	39日	1,030度
	6月上旬植	8月12日	9月21日	40日	1,030度
	6月中旬植	8月19日	10月 2日	44日	1,100度
関東209号 (中 生)	5月下旬植	8月14日	9月25日	42日	1,050度
	6月上旬植	8月20日	10月 1日	42日	1,050度
	6月中旬植	8月25日	10月 9日	45日	1,100度
祭り晴 (中 生)	5月下旬植	8月17日	9月28日	42日	1,050度
	6月上旬植	8月23日	10月 5日	43日	1,050度
	6月中旬植	8月28日	10月15日	48日	1,100度

(農業総合研究所 平成12~15年平均値)

玄米の発育と障害粒の増加経過

- 玄米の千粒重は、概ね出穂後30日で最高になります。
- 青米(青い籾)は、出穂後30日以降急激に減少しますが、50日頃まで残ります。
【青米(生き青)は、検査等級に影響しません(等級低下の要因にはなりません)。】
- キヌヒカリの場合、障害粒は、出穂後約45日以降急激に増加します。関東209号や祭り晴は、成熟期の気温が低くなるため、障害粒が急激に増加するのはやや遅くなり、出穂後約50日以降になります。

玄米の発育と障害粒の割合モデル図(「キヌヒカリ」の場合)

